# お別れの御挨拶

長　田　美　子（動物学教室）

教室の片隅に白ペンキで昭和27年実動機…と書かれた木製の棚があります。私が教室で初めて書き込んだ備品番号，それがこんなに古びてたゞ置かれているのを見ると改めて37年の歳月の長さを思います。

もしかしたら動物園のようにいろいろな動物がいるのかしらと，動物好きの私が胸を躍らせて教室に足を踏み入れたのは，敗戦後，日本の社会，経済が漸く立ち直り始めた昭和27年の春でした。

郵便の出し方も知らず，給料がいくらかも，税金を納めなければならない事も，公務員と云うものになった事すら知らずに勤め始めた私でした。1年目の教室の予算は150万円，ものすごいお金だな，と目を見張った事が懐かしく思い出されます。昭和32年の物品管理の大改正が私が意識して始めての大仕事でした。明治11年以来の備品の帳簿と，その時点での教室のすべての備品を対照して，新しい備品の分類表によって物品供用簿を作成すると云う作業でしたが，教室全員の方々の御協力によって暑い夏の日にようやく終った時の嬉しさも忘れられない事の一つでした。そしてこの頃から私に教室の一員としての意識が出て来たような気がいたします。その後，何回かの動物学会の大会，そして国際会議のお手伝い等々，変化の無い繰返しのような日常の中にもイベントと云うべきものがあり，楽しい日々でした。

昭和52・53年の2号館改装のための1号館への引越し，そして長年の3階ずまいから1階への住み変え，ここ10年程は窓の外の欅に四季の移り変りを見，青空を仰いでは好きな山を想い，と云う自然に恵まれた窓辺でした。

37年の間に日本は驚異の経済発展を遂げ，オリンピック，安保闘争，大学紛争等々，多くの事がありました。教室も講座がふえましたし，先生方も変りました。事務室の仕事の内容も，その量も時の流れと共に激しく変りました。そして驚くべき事には10年程前からコンピューター時代が到来し，機械によって事務処理が行なわれるようになったのです。私が仕事を始めた頃には500枚でも1,000枚でも封筒の宛名を書きました。又，謄写板で何千枚もの印刷物を刷った事を思い出します。30年程前の複写機の出現も画期的な事でしたが，現在ではコピーがないと仕事が進まないようになりました。コンピューターも近い将来，無ければ大学の事務機構が動かないと云う日が来る事でしょう。今，私は“老兵は消え去るのみ”と云う心境ですが，又一方では，自分の手で字を書き，一つづつ手作りの事務をして来た事に少しの満足感を味わっております。私にとっては本当に良い時機に職場を去る事が出来るのだなと心から思います。

最後にこの37年間，楽しく，充実した日を過させて下さった動物学教室の先生方，同僚の皆様方に心からの御礼を申し上げます。そして又，いつもお助けいただいた理学部事務室，他教室の事務室の皆様方にもたいへんお世話様になり，本当に有難うございました。

平成の時代を迎え，更に21世紀にはいって，理

学部が大きく飛躍する事をお祈りしてお別れの御挨拶といたします。

＊　＊　＊

（主任の嶋先生が送る言葉を書いて下さるとおっしゃいましたが，おいそがしい先生の時間をおさき頂くのは申し訳ないので御辞退いたしました。）

（上のような次第につき，執筆できません。嶋）